

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) (この表は必要な部分を記入)

筋力テスト ()	関節可動域	筋力テスト ()	関節可動域	筋力テスト ()
() 前屈		後屈 () 頸		右屈 ()
() 前屈		後屈 () 体幹		右屈 ()
右				左
() 屈曲		伸展 ()		屈曲 ()
() 外転		内転 () 肩		外転 ()
() 外旋		内旋 ()		外旋 ()
() 屈曲		伸展 () 肘		屈曲 ()
() 回外		回内 () 前腕		回外 ()
() 掌屈		背屈 () 手		掌屈 ()
() 屈曲 母		伸展 () 中手指節 (MP)		屈曲 ()
() 屈曲 示		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲 中		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲 環		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲 小		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲 母		伸展 () 近位指節 (PIP)		屈曲 ()
() 屈曲 示		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲 中		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲 環		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲 小		伸展 ()		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () 股		屈曲 ()
() 外転		内転 ()		外転 ()
() 外旋		内旋 ()		外旋 ()
() 屈曲		伸展 () 膝		屈曲 ()
() 底屈		背屈 () 足		底屈 ()

備 考

(注)

1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
2. 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
3. 関節可動域の図示は、 のように両端に太線を引き、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線 (∞) を引く。
4. 筋力については、表 () 内に×△○印を記入する。
 ×印は、筋力が消失または著減 (筋力0・1・2該当)
 △印は、筋力半減 (筋力3該当)
 ○印は、筋力正常またはやや減 (筋力4・5該当)
5. (PIP) の項母指は (IP) 関節を指す。
6. DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
7. 図中塗りつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(×) 伸展 屈曲 (△)